

ジュゴン Vol.63

ちゃんぷるニュース

 **2012. 7. 24**
Save the Dugong Campaign Center

CONTENTS



- 2 宜野湾市民大会
- 普天間・オスプレイ院内集会
- 3 宮森 630 を伝える会
- 大飯原発再稼働に反対します
- 4/5 特集：じゅごんの里ツアー報告
- 7 コラム「オスプレイのミスプレイ」
- 8 お知らせ

今年も7月6日から8日まで“じゅごんの里ツアー”を開催しました。ツアーはジュゴンが棲む海に実際にふれ、住民の方との交流や知識を深めるSDCCの重要で、楽しい活動の一つです。その中で「すべての沖縄の家庭に古酒樽を復活させよう」と活動している名護市底仁屋（そこにや）の蔓草庵（まんそうあん）を訪れました。そこで、沖縄の古酒はただ寝かせるのではなく、毎年、樽の約1割を飲んで、その分、新しい泡盛を足していく「仕継ぎ」を行うことを知りました。面白いことに、古酒はそのまま寝かしておくよりも「仕継ぎ」をしてお酒を足すことで、新しいお酒に古いお酒が絡み、より美味しく育っていくのだそうです。

あなたの力がジュゴンを守る後押しに！

その話を聞いて、「仕継ぎ」は活動やまちづくりと似ていると思いました。将来の人のためだけでなく、今の私たちも美しい海での体験や人々との出会いという楽しみがあります。しかし、楽しむだけではなくなくなってしまい、寝かすだけでは味が落ちます。新たな人や行動を加えることで、活動に広がりや深みが増すのです。そして、次の世代にその守り方や楽しみ方を伝えていかなければ途絶えてしまいます。

今、私たちの活動には新たな人や行動が必要な時期です。名護市では稲嶺市長になり3年目の今年、まちづくりコーディネーターの導入や環境基本条例や計画策定の動きなど、本格的に環境に配慮したまちづくりへと進んでいます。SDCCも9月には韓国で行われる国際自然保護連合(IUCN)の大会で、世界の流れとしてのジュゴン保護を更に多くの人にアピールし、ジュゴン保護を進める外国とも意見交流をして、名護でのまちづくりに活かせるような情報収集を行います。

SDCCの活動はジュゴンフラッグや署名集め、ブース出展や写真展、ツアーなど多岐にわたっています。皆さんも是非、できるところに参加してみてください。新たな参加や行動が、私たちの活動を熟成させ、ジュゴンや美しい海が守れる名護らしいまちづくりを後押しすることにつながります。

(関西 正阿彌(しょうあみ)崇子)

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp



古いお酒に新酒を継ぎ足して、より美味しさを育てるといふ、泡盛の「仕継ぎ」(蔓草庵にて)

2012 濟州島へ行こう！

SDCCハンゲル講座～

— 最終回：食堂で使ってみましょう —

◆맥주 두개 주세요. (ビール、2つください)
メッチュ トゥゲ チュセヨ

◆맛있어요. (おいしいです)
マシッソヨ [もとの意味は「味があります」]

◆잘 먹었습니다. (ごちそうさまでした)
チャル モゴッスムニダ [「よく食べました」]

危険なオスプレイの沖縄配備に反対します。



8月にもオスプレイが普天間基地に配備されようとしています。沖縄県民は「本土では配備に反対すれば撤回するのに、なぜ拒否している沖縄に配備するのか。沖縄差別だ」と批判しています。6月17日、宜野湾市民は配備反対の大会を開き、県民大会が8月5日に宜野湾海浜公園で10万人規模で開かれます。

東京ではオスプレイ配備反対の連絡会(SDCGも参加)が結成され、配備反対全国署名と7月11日(水)文京区民センター、8月5日の行動を準備しています。

オスプレイの事故は人的ミスではありません。エンジントラブルが墜落事故にすぐにつながる構造的な欠陥があるのです。オスプレイはプロペラが向きを変えて飛ぶ、ヘリと固定翼機の両用機です。しかし今までのヘリと比べて、エンジンが停止をしても風の力で揚力を利用して安全に着陸するオートローテーション機能が効きません。そして、ヘリから固定翼機に切り替える必要時間は12秒、その間480mも落下します。しかも重量は従来機の2倍です。このような危険なオスプレイの配備に反対しましょう。

オスプレイ配備反対の宜野湾市民大会 ～「島ぐるみ」の抵抗はじまる



1950年代沖縄では、「銃剣とブルドーザー」による米軍基地建設のための土地強制収収に抵抗し「島ぐるみ」の闘争が行われました。沖縄では今また、新たな「島ぐるみ」の闘いが米軍のオスプレイ機配備をめぐる始まっています。

その象徴と言えるのが、6月17日に宜野湾市主催により行われた「普天間飛行場へのオスプレイ配備に反対し、固定化を許さず、普天間基地の早期閉鎖・返還を求める宜野湾市民大会」です。宜野湾市内外から集まった5200人の中には、市内各地域の代表の姿は勿論、多くの子供連れの家族やお年寄りの姿がありました。

様々な意見表明のなかでも「老人クラブ代表」多和田真隆さんの「普天間基地のある土地は自分たち



が生まれた土地。自分の土地に帰りたい」という言葉に、多くの人々が心を揺さぶられたと思います。同市民大会は、現在行われている普天間基地の大山ゲート前での座り込みに連動しています。またその決意は、7月1日に開催されたやんばる高江のヘリパッド建設に反対する座り込みの5周年の集会や、7月11日の辺野古での座り込み3000日の集会でも確認されました。

日米政府のオスプレイ配備に反対し、「座り込み」や様々な非暴力の手段をもって阻止していくという「島ぐるみ」の動きは、これからさらなる緊張感を伴いながら、高まっていくと思います。8月5日は「県民大会」が開催されます。(沖縄 吉川秀樹)

オスプレイ配備反対市民大会



6. 27院内集会・防衛省行動

6月27日、参議院議員会館で防衛省、外務省との大衆交渉（辺野古実行委員会主催）を持ちました。会場には手作りの4メートル大のオスプレイの模型。沖縄からは普天間爆音訴訟団幹事・新垣仁英さんとヘリ基地反対協共同代表・安次富浩さん。参加者は80人。文書回答をふまえて、2時間を超える大衆交渉が行われるなど画期的な取り組みでした。

交渉では、オスプレイの「事故率」については、MV22が1.93で、現在使用のCH46の1.11より高いこと。CV22（MV22の機体の9割が共通している）の事故率が13.47であることなどが明らかになり、オスプレイ配備の危険性がますます明らかになりました。安次富浩さんは「オスプレイが安全だというのなら、市ヶ谷の防衛省に配備すべきだ」と厳しく批判しました。

（事務局 蛭川義章）



「宮森630を伝える会」に参加して

6月30日、東京・文京区民センターにて「沖縄・宮森小学校米軍ジェット機墜落事件から53年、普天間基地へのオスプレイ配備の危険！～構造的沖縄差別を問う～」宮森630を伝える会が行われ、SDCCも協賛で参加しました。沖縄県・宮森小ジェット機墜落事件の映像報告と、沖縄国際大学に米軍ヘリが墜落したときの危機感迫るスクープ映像が流され、益々、オスプレイ配備の危険を実感しました。そして、宮森小学校の事件を元にした映画「ひまわり」（制作中）の上映運動の報告と、沖縄大学名誉教授の新崎盛暉さんの「構造的沖縄差別を問う」講演があり、東京新聞の早川由紀美さんからは、「こちら特捜部」で継続的にヘリ墜落を追及した時の思いが語られました。

（首都圏 宮城韶子）



大飯原発再稼働に反対します。

7月2日に福井県大飯原発が再稼働されました。福島原発事故の原因も明らかにせず、電力会社などの経営のために再稼働した野田内閣を厳しく批判します。大飯原発再稼働を契機に、停止している全原発の再稼働を許してはなりません。

6月29日（金）首相官邸前には全国から市民が駆けつけました。毎金曜日の行動には老若男女、子ども連れ、サラリーマンなどで参加者が増え、今回は20万人が参加しました。国会記者会館前から経産省までの700m、国会議事堂前、衆議院第

一議員会館前などに人人人…。「黙ってはいられなかった」と、自前のプラカードを持ち、口々に「再稼働反対」を叫んでいました。午後7時40分過ぎには、警察も規制をあきらめて、国会記者会館前から六本木通りまでの車道を全面開放。年配者が「このようなことは60年安保闘争以来だ」と。7月16日（日）に代々木公園で10万人集会が、7月29日（日）に首相官邸前行動があります。闘いはこれから、各地で頑張りましょう。

行って来ました☆

第7回じゅごん

7月6日～8日の三日間、「じゅごんの里ツアー」を開催しました。初日は、普天間飛行場に隣接した返還地に立つ佐喜眞美術館で、のどかな田畑・集落地域が世界一危険な基地へと変貌していった経緯などを佐喜眞館長から伺いました。表敬訪問した名護市役所では、文化財の指定で注目されている天仁屋周辺の褶曲地形のことについて教育長や文化財担当の方からご紹介いただき、新たな観光スポットとしての期待を大きくしました。

2日目の朝は、その晩泊る民宿のご主人が家の前の海に仕掛けた網上げ体験から始まり、獲物は夕食の奥さんの美味しい魚料理へ。辺野古テント村では3000日を超えてなお続く座り込みの状況についてお話を伺い、午後は東恩納琢磨さんの案内で、船で大浦湾を巡りました。

好天で、20m近い海底の砂地からそびえる巨大なアオサンゴ群集がはっきり見え、その迫力に圧倒されました。

3日目は、浦島悦子さんの案内による東海岸散策コースとカヌー体験コースに分かれて名護の自然、文化を満喫しました。1年ぶりの「わんさか大浦パーク」は客足途切れることなく、明るい活気を感じました。カヌーも予約が一杯で今年は「じゅごんの里」のカヌーを使用しましたが、地域おこしが順調に進んでいる印です。2日目に渡具知武清さん一家のピースキャンダル行動に参加していても、笑顔で手を振りかえして下さる方が多く、ますますこれからが楽しみな名護訪問となりました。

(関西 海勢頭聖)



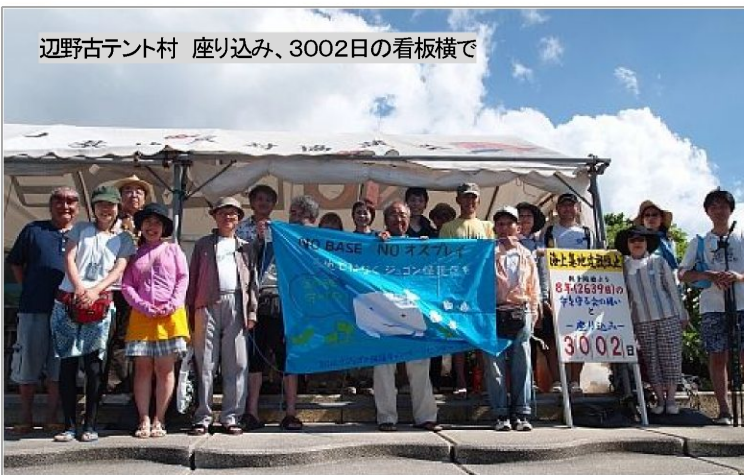
佐喜眞館長さんから、お話を伺いました



名護市役所訪問。教育長さん、文化財担当の方と一緒に記念撮影



パワーポイントでの褶曲地形の説明、わかりやすかったです



辺野古テント村 座り込み、3002日の看板横で



朝日を浴びながら、海にこぎ出しました。民宿「てるや」のご主人と。



残念ながら、豊漁とはいきませんでした。サメが2匹かかっていました。干すと珍味になります。



思いを込めて、今年もリボンを結びました



写真: 牧志治さん

シュノーケルでアオサンゴを観察



渡具知さん一家と、ピースキャンダル

の里ツアー



カヌー体験

瀬嵩の浜からこぎ出し、大浦川のマングローブ林へ



地域の活性化のために、と夫婦ではじめられたお餅屋さん



東海岸散策

蔓草庵の前で 島袋正敏さん、浦島さんと



地元の食材を使った「かみじゅ」というお店でランチ



ツアー参加者の寄せ書きを持って、スタッフが、高江の座り込みテントに、行って来ました。NO オスプレイ！

高校の修学旅行で訪れて以来、2回目の沖縄訪問でした。今回訪問して感じたのは、まだ沖縄では戦争は終わってはいない、ということです。普天間基地を例に挙げれば、近くで住む住民にとっては毎日戦闘機の爆音と共に生活し、いつ落ちてくるかわからない危険性のある中で日々生きているということをもっと私たち日本人全体で共有しなければならぬと思いました。また、辺野古基地移設問題に関して、オスプレイに関して沖縄県民自身というよりも日本全体の問題だと思えますし、そういった視点を持つために想像すること、そして何よりも実際に自分の目で見て感じ取ることの大切さを改めて感じましたし、本当に有意義な3日間でした。（関西から初参加 大里晃司）



参加者からの声

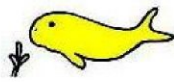
不思議な縁で大浦湾カヌー体験に参加させていただきました。皆さんとも初対面でしたが、ご一緒してとても楽しく、なぜか自然体でいれる自分を感じていました。気持ちいい波と風と太陽とマングローブ、心地よい身体の疲れ、皆で食べるおいしいおいしい食事。自然、生き物、人の繋がりをいっぱいを感じる体験が持てました。こころの病の治療にあたって10数年。最近、こころの病って、人体という自然が、文明社会に行き過ぎた人間に対して、自然に戻ろう戻ろうと、摩擦を起こしている現象じゃないかと、思えるようになってきました。ガイドさんからマングローブの生態系の説明を受けた時、人という生態系に思いが巡っていました。恥ずかしながら、僕は基地問題や大浦湾の事情などほとんど知りませんでした。それでも、自然との一体感を実感すると、何が本来なのかは自ずとわかることなのだと思います。

（島尻郡在住 大城隆太郎）

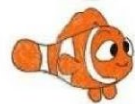
カヌー体験ツアーに参加して

今回で3回目の参加になります。今回は小5の息子も一緒に参加しました。辺野古大浦湾の海へ向かって進んでいって。そのあと小休止して、今度は川へと向かってマングローブ観察というコースです。「百聞は一見に如かず」とはまさにこのこと。大浦湾の美しさ、川に手を突っ込んで、海水と淡水とが混ざるという不思議を体験し、生態系の豊かさを知る。ここに海上基地を作ったら、この豊かな自然はどうなるのだろう、と本当に感じました。力を合わせてカヌーをこぎながらいろいろ考えることができるなんて、素晴らしい不是吗？まだツアーに参加したことのない皆さん、ぜひ足を運んでその目で見ることを勧めます。

（那覇市在住 徳門梨）



写真展報告



6月16日～17日にかけて、なかのゼロ西館美術ギャラリーにて、写真家の山本英夫さんとのジョイント写真展を開催しました。山本さんの写真は「沖縄 基地の重圧をゆるがす」と題して、68枚を展示しました。2009年11月8日から2012年3月15日の間、普天間・辺野古・大浦湾・高江～南西諸島を丹念に歩き、闘いの現場で人々の表情・怒り・暮らしを記録したものでした。その中でひとときわ目を引いたのは、子供たちの姿を撮したものでした。「あえて子供の写真を選んだ。子供自身が大人の生き方を見ている」(山本さん)

また、SDCCからは、辺野古・大浦湾の海中写真、IUCNコーナーなどを展示しました。

交流会では、「子供の写真がホッとする」(男性)「ジュゴンが三頭しか確認されなかったと聞いた。基地が作られたらおしまいだ」(男性)との感想がありました。久々の主催イベントでしたが、会員さんをはじめ皆さまの協力で無事終わることができました。(首都圏 三村昭彦)



毎年、環境月間の6月に開催される「すいた環境教育フェア」に、出展して来ました。9度目の参加となる今回は、辺野古・大浦湾をフィールドに活躍中の写真家牧志治さんの写真をメインに展示しました。このフェアには、環境に興味を持つ、多くの来場者があります。海と生きものの素晴らしい写真を通じて、基地計画についても知ってもらうことができました。展示のほか、プロジェクターを持ち込み、ジュゴンの映像やジュゴン保護の取り組みについてのビデオ上映もしました。今回、おりがみアクション(※)の方がSDCCブースに参加して、子どもたちに動物や鳥、木などのおりがみを教えてくれました。ジュゴン♡フラッグとともども、とっても人気のコーナーになりました。ブースは一日大にぎわいで、署名もフラッグもたくさん集まりました。(関西 山根富貴子)

※生物多様性の10年2011～2020に、おりがみを通じていのちのつながりを考えようというアクション。

詳しくはこちら <http://www.cop10-origami.com/>



訪ねて
来ました

～ 未来のジュゴン・サポータたち ～

ぶどうの木保育園訪問記



行ってきました！ぶどうの木保育園。2度目のジュゴン♡フラッグ22枚が届き、とても感動。フラッグを描いてくれた園児たちに会いたいな、園児たちの写真をIUCN国際会議場で飾りたいなと思い、出会ってきました。

毎年、年長さんは沖縄平和キャンプ(3泊4日)に出かけます。その直前ということで“ジュゴンのお話し”をさせて頂きました。「ジュゴンのごはんは？」に「ジャングサー」、戦争のことを話すと「爆弾が落ちてくる…」と答えが返ってきます。3歳児の頃からの準備のたまものです。

沖縄では佐喜真美術館、対馬丸記念館などを訪れ、伊江島のわびあいの里では謝花さくらのお話を聴いたり、辺野古テント村も訪れます。『命が大事なんだよ』と平和を学んでいる園児たち、頼もしく思いました。「ジュゴンを守る人になってくれる？」には「なるー！！」と元気いっぱいです。未来のジュゴン・サポータですね。園児たちのメッセージをジュゴン♡フラッグとともに、国際会議で世界中の人たちに伝えたいと思っています。(写真→)

(関西 池側恵美子)

オスプレイのオスプレイ = ~こらむ・コラム~

オスプレイとは、ミサゴのことだ。日本本土の海辺や水辺に棲むタカ科の鳥で、背面は茶褐色をして、頭部と下面は白い。鋭い爪で水面の魚をつかみ取りするのであるが、特筆すべきは、ミサゴの飛行能力が素晴らしく優秀な点である。強く海風を受けながらも空中に滞空し、また魚を見つけて急降下するときのスピードは、時速200キロ以上の比類のない速度を記録するという。

それに比べると、米軍事産業がミサゴにあやかって開発し、配備を進めてきたオスプレイなるものの能力の低さは言うまでもない。これまで未亡人製造機と揶揄されるほど事故を多発させているにも関わらず、また内外から安全性に問題があると指摘されながらも、また沖縄県民が島ぐるみで「オスプレイ配備反対」を訴えてきているにも関わらず、米軍の配備計画は変わらないという。

しかしもはや沖縄県民がオスプレイ配備を許すことはない。普天間基地を辺野古へ移すことも許さないで

あろう。8月5日には宜野湾で最大規模の「オスプレイ配備反対県民大会」が予定されている。そしてその反対運動は今や山口県の岩国を初めとして、全国市町村へ飛び火して起きつつあるのだ。言わば日本本土の沖縄化に反対しているのであるが、しかしそれでも、米軍事産業が生き残りを掛けて開発配備を進めてきたオスプレイを国防省当局はひっこめるつもりはないようである。出来の悪い息子ほど可愛いとでも言うのか、未だにオスプレイの機体が悪いのではなく、操縦士が悪いのだと、それで事故が多発してしまったのだと、訳のわからない詭弁を使って沖縄人や日本人を説得しようとしているのだ。

だがそれは無理というもの。オスプレイ配備を強行すれば、日米安保を崩壊させかねないミスプレイを誘発する。怒りのマグマはすでに爆発寸前にあるからだ。韓国もそうだが戦後67年間日本は米軍政下に置かれた偽独立国であった。そのことに気付き始めたからである。

海勢頭豊 (うみせど ゆたか：SDOC 共同代表)



おきなわ便り

~ 沖縄真夏の幸せ感 ~

梅雨が明けると、いよいよ真夏日到来です！

海に行ける！アウトドアが楽しめる！！と心がウキウキしますよね。外出！？すると思いきや実際はその気持ちのまま、室内の涼しい部屋(空間)から、ジリジリとした太陽が降り注ぐ大地や綿菓子雲の青空を眺めてまったりする時が幸せ～と感じます。

沖縄は、あまりの暑さに日中は部屋にこもることを好む人が多く、あまり道を人が歩いてないんです。車社会だからということもありますが、歩くにしても、日焼けしたくない為、日陰を探して歩いています。日中に直射日光を浴び

て喜んで道を歩いているのは、ほぼ日焼け歓迎の観光客が多いのではないのでしょうか。

もう一つ、ご紹介。

突然のスコール(雨)です！今まで晴天だったのに、突然雨雲が現れザーザーと雨雲が出ている部分だけ大雨が降ることがあります。一直線の道路を車で走行中にスコールに合い走行を続けていると、突然晴天になるんです。

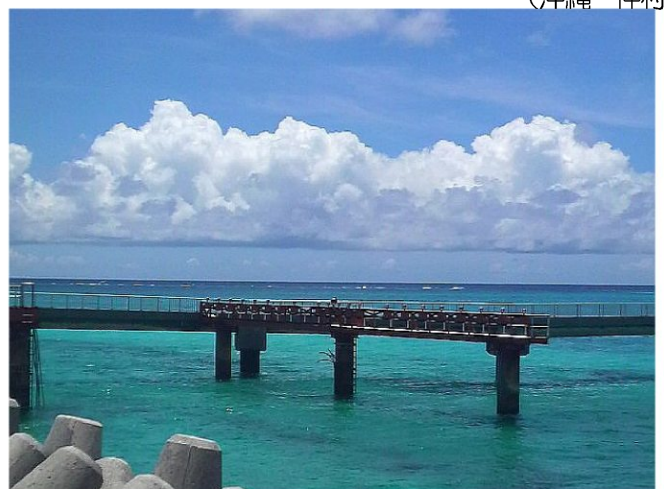
地面を見ると、雨で濡れた所と、晴天で乾いた所の境目に線がはっきり引かれたように見えます。遭遇したときは、さっきまでのスコールは夢だったのか？と偶発の瞬間に居合わせた気分になり、幸せ～と感じます。

(沖縄 仲村)



ぶどうの木保育園のみなさん

めいめいで描いた
フラッグを前に
ノ、マ、ミ



IUCN会議に向けて準備を進めています。 カンパをお願いします☆



IUCN 会議では、ブース出展、ポスター展示などたくさんの企画を予定しています。また、韓国・済州島のNGOとともに、自然と平和を守る海勢頭コンサートを開催します。ブース代、コンサート費用など多くの経費がかかるので、皆さまのご支援をお願いします。カンパ振り込み先

- 郵便振替 口座番号:00140-9-660199 加入者名:ジュゴン保護キャンペーンセンター
- 銀行からの振り込み ゆうちょ銀行 ○○八支店 普通 8159084 口座名 ジュゴン保護キャンペーンセンター

生物多様性の日だ☆フラッグ集めるDAY(で〜)!

5月22日の国際生物多様性の日にちなんで、多様性豊かな辺野古・大浦湾—ジュゴンの海を守ろうと、5月20日に、大阪駅前、ジュゴン♡フラッグを集めました。名付けて「フラッグ集めるDAY(で〜)」。もちろん、ジュゴン保護の署名も集めました。陸橋にならんだジュゴンたちも、人集めに一役買ってくれています。

沖縄の会の方たちが、大飯原発再稼働の街頭投票に取組まれていました。私たちもお手伝いしました。たくさん集まったバナーと、描いてくださった皆さんのステキな笑顔にTHANK YOU!です。

久しぶりの大阪駅前行動でした。陸橋上でいろんな方と再会できてよかったです。9月のIUCN 済州島大会でジュゴン♡フラッグをはためかせます。(関西 松島洋介)



フラッグ900枚集まっています☆



NO OSPREY!

☆オスプレイ配備中止署名(8/31 第2次集約)にご協力!
<オスプレイ配備反対アクション>

☆オスプレイ反対県民大会 8月5日(日)午後3時~
宜野湾海浜公園

☆8.5東京集会 8月5日(日)午後1時~ 集会後デモ
【会場】日本教育会館・一ツ橋ホール【参加費】500円
☆大阪でも8月5日にアクション準備中

平和と民主主義をめざす全国交歓会・第42回大会

- *7/28(土)29(日)会場:エル大阪(天満橋)
- *SDCCの分散会企画 29日午前9時半~12時
- IUCN 会議に向け「基地ではなく保護区を」のキャンペーンを!
- オスプレイ配備阻止 普天間基地閉鎖
- ※ブース出展もします。ぜひお越しください。

Editor's Note

暑い日が続き、夜も寝不足になりがちかと思えば、大雨で涼しくなったりと、気象の変化が激しいですね。問題も山積で取り組むべき課題も増える一方の世の中ですが、体調を崩さないように気を付けましょう。(S)

今号から紙面のレイアウト変更しました。気付いていただけたかな?(Y)

ジュゴンちゃんぶるニュース VOL.63 2012年7月24日発行
ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-2-1
第1千代田ビル301 なかま共同事務所内 TEL/FAX 03-5228-1377
○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp
(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302
TEL/FAX 06-6353-0514



※ジュゴン♡フラッグただいま約900枚。目標1000枚です。ぜひ送ってください☆ 締め切りは8/20(月)です。